

大阪YMCA第15回チャリティーラン2009

支援金は3,604,040円

第15回大阪YMCAチャリティーラン大会実行委員長

えんどうみちひろ 遠藤通寛



第15回目の大阪YMCAチャリティーランは、第1回開催地と同会場の大坂城公園にて11月23日(月・祝)に開催されました。前年の雨天とは違い、今大会は快晴の下、大阪城をバックに紅葉の中をランナーは快走しました。ランナーが快走できる条件を整えるために、多くのボランティアの方々のご助力をいただきました。また、数度にわたって行われた事前打ち合わせにも企業ボランティア、各ワイズメンズクラブ、リーダーOBの参加をいただきました。今年の参加チームは順位制(18チーム)、宣言タイム制(34チーム)オープン制(7チーム)の合計59チーム。ランナー、応援、ボランティア、スタッフの総勢は1000人で、早朝から多くの方々にご協力いただきました。大坂城公園は交通手段がたくさんあり、各所に道案内を設けることができましたが、さすがに日本のランドマークだけあり、当初心配されたほどの混乱もなかったようです。

競技は3種類あり、日頃の鍛錬を試す順位制には、今年も健脚が揃いました。他にはチーム全員の予告タイムを合計しトータルタイムを宣言し、その誤差を競う宣言タイム制、伴走者とともに楽しく走るオープン制(大勢の仲間と本当に楽しそうでした)がありました。ランナーの中にはいろいろなコスチュームを着て走るチームがあります。毎年あつと驚くような工夫があり大会を盛り上げています。このコスチュームには各チームのテーマがあり、平和を祈願したもの、キャラクターもの、自分たちの活動をテーマにしたもの、その制作に数カ月を要したものの、徹夜で作ったものもあります。次回も楽しみます。

この度の大会は大坂城に観光に来られた方々、日頃散策されておられる住民の皆様がYMCAの活動を見ていただく良い機会でした。多くの方々が立ち止まり、また応援されておられる方もありました。表彰式の入賞チームのメダルは大阪YMCA国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科の皆さんのデザイン・作成です。大変立派なものでした。

また今大会では、大阪YMCAの4人のリーダーOBが実行委員として参加してくださいました。この第15回大会も会場の設営、運営、競技、撤収までお手伝いいただきました。三菱商事(株)、ジョンソンコントロールズ(株)、ザ・リッツ・カールトン大阪、NTT西日本(株)、リコー関西(株)の社員の皆様、チャ・リーダー、ワイズメンズクラブ、ユースリーダー、リーダーOB、ランナーとして参加いただきました方々、ご家族の皆様のお陰をもちまして無事終えることができました。大会支援金3,604,040円は、大阪YMCAが行う障がい児・者支援のために用いられます。皆様の温かい支援に感謝申し上げます。また、来年度のチャリティーランでお会いしましょう。ありがとうございました。

チーム「かじりいチョップ」

チーム「せくすいビーム」

宣言タイム制優勝!

三菱商事株式会社からは、6チームが参加され、その中から2チームにお話を伺いました。中心となって取材に答えてくださった「せくすいビーム」の最終走者・相部康志さんの言葉に誰かが突っ込んで、みんな盛り上がりだして大笑い。性別年齢様々ですが、水色の生地太陽のマークが入ったお揃いのTシャツを着てとっても和気藹々とした雰囲気でした。普段からボランティアへの関心が高く、このTシャツも以前にボランティア活動に参加された時のものだそうです。わざわざ東京から参加された方が多く、前日は雨の中の京都観光で足が棒になるほど歩かれたとのこと。その疲れを感じさせず、逆にウォーミングアップになったと笑っていらつしやいました。



また、宣言タイム制に参加された「かじりいチョップ」が、タイム差9秒で1位!取材中の印象通り、チームワークもばつちりの皆さんでした。(前田 薫、統括本部スタッフ)

チーム「リコー関西ラグビー部」

若さあふれる力強い声援があちこちから聞こえてきました。そのチームはリコー関西ラグビー部!赤と黒のユニフォームでバツチりきめ、女性マネージャー1人を含め、各ポジションのエースが集結した「ザ・体育会系」チームでした。「日頃のラグビーで鍛えた体力を発揮したかったが、思っていたより厳しいコースだった。でも、走り終わってみると超きもちいい!気分はランランラン!」とユーモアたっぷりキャプテンの信長直樹さんは語ってくださいました。「来年は走りの速い人を集めて、絶対1位をとりにいきます!」と意気込みを話してくださいました。



リコー関西株式会社の皆様はランナーとしての参加だけでなく、ボランティアとしてコースの警備や他チームの助っ人としてもお手伝いいただきました。自分たちのチームだけでなく他のチームも一生懸命応援している姿は、チャリティーランに活気と明るさを与えてくださいました。(藤岡 侑子・統括本部スタッフ)

チーム「エンジェル水泳」

毎年出場しているチャリティーラン。今回参加した子どもたちは6人、エンジェル水泳チームは基本的に1周を半分に分けて2人で走ります。みんな走れるかな?歩いて良いからね。そんな心配をよそに、1人で1周走りきる子どもも歩かず最後まで走りきる子どもたち、中にはリーダーを置き去りにするくらい速いスピードで走る子どもたち。次の走者まで一生懸命タスキを運びます。最後の1周残り半分からは、子どもたちとリーダー、そして保護者の方々と共に走り、最後はみんなでゴール!「頑張った!」など喜びと自信に満ち溢れ、また子どもたちや保護者、リーダーたちからたくさん笑顔が見られました。



「エンジェル水泳」では、月2回程度の水泳クラス以外にも、毎年キャンプへ行ったり、チャリティーランに参加をしたりしています。このような日常とは違う環境の中での体験が、成長へと繋がっていくことを願っています。今後もイベントや水泳クラスで、成長や自信へと繋がっていくことでしょう。次回は、もっとたくさん子どもたち、保護者の皆さん、そしてリーダーたちと共に出場し、たくさん笑顔と出合えることを楽しみにしています。(川谷いずみ・南YMCAウエルネスセンタースタッフ)

チーム「チーム走り屋★」

順位制、優勝!

高槻・茨木YMCAからは毎年、チャリティーランの順位制に1チーム出場しています。2年前のチャリティーランでは惜しくも2位でした。「今年こそは絶対優勝するぞ!」と迎えた今大会は、走りに自信をもっている現役リーダーに声をかけ、1カ月前からチーム作りを行いました。チーム名は「チーム走り屋★」。その名の通り、走ることを仕事にできるといいたいという思いが込められていました。チーム編成はサッカーリーダー3名にバスケットリーダー1名、スタッフ2名で平均年齢は21・8歳の若さ溢れるチームでした。普段は自転車や車で移動している所を走ったり、サッカーグラウンドまでの長い上り坂で走りこみをしたりと、各自で1カ月前トレーニングを行いました。

自信を持って迎えた当日。最初の順位は4位。しかし、最後は2位に1分以上の差をつけてのゴールとなり、念願の初優勝を飾りました。走っている途中にはたくさんの声援が聞こえ、それが力になり、最後まで全力で走りきることができました。1つのタスキをみんなでゴールまでつなぐ団結力と、努力は報われる!というのを感じることができた大会になりました。次回も連覇を目指して頑張ります!(松本圭旦・高槻YMCAスタッフ)



